

## 明治以降の都市住宅における台所の変遷

向陽台高等学校 ○石田康子

奈良女大家政 扇田信

目的 従来、台所の変遷については建築工学的な面からの研究が多いと思われる。本研究では、明治以降の都市住宅の台所を対象として、その構造と機能の変遷を、食生活、家事労働の担い手、住思想、教育水準の変化、産業構造の変化・発達とい、下諸側面の変化との関連により明らかにすることを目的としている。

方法 『家事研究』『婦人畫報』『婦人世紀』『家庭科学』『家庭之友』『住宅』や明治以降に出版された家事労働関係の諸文献より台所に関する記事を収集し、明治維新以降を二つの世界大戦を区切りとして三つの時期に分け、これらの資料から読みとれる都市住宅の台所の構造と機能の変遷を分析・検討した。

結果 第一の時期の台所は住居の北側に位置し、食物調理の場とは思えないほど不衛生で、動作・収納等の面では非能率的な構造になっていた。第二の時期以後、住宅改良に社会の関心が集まるとともに、女性の教育水準・社会的地位の向上に伴い、台所改善の機運も高まってきた。これらの資料によれば、台所を清潔で合理的でより快適な家事労働の空間にしていくためのさまざまな改良案が出され続けた。改良案と現実のギャップは大きかったもののこの時期には実際には、都市の一部の中産階級を中心に躊躇式から立働式への改良・収納の工夫がなされたようである。さらに第二次大戦以降は、種々の加工食品の普及により台所の空間の機能は食品加工から当座用調理と配合へと変化し、まただんらんの間としての位置づけが大きくなったこと、電化製品・ステンレス流しの普及、住居の東南部への配置などにより、住居内でも特に軽視できない空間になりつつあるといえる。